

文化活動発表・鑑賞の場に関する方針について

1. 施設概要

施設の名称	大野市文化会館（～平成8年まで大野市民会館）
供用開始	昭和41年6月
敷地面積	5,981.97 m ²
構造	R C 造（鉄筋コンクリート） 一部 S R C 造（鉄骨鉄筋コンクリート） 3階建
延べ床面積	3,161.03 m ² （1階1,951.83m ² 、2階1,022.24m ² 、3階186.96m ² ）
ホール客席数	633席 （昭和63年の大規模改修工事により818席から633席）
建設費	1億6千万円
駐車台数	97台

2. 主な経緯

- ・平成20年度 耐震診断調査を実施
(判定結果はA～EのうちE判定【耐震性は相当劣る】)
- ・平成21年度 耐震補強計画作成
- ・平成26年10月 大野市文化会館在り方検討委員会設置 (5回開催)
- ・平成27年 4月 文化会館の在り方と今後の方向性に関する報告書提出
(駅東公園も含めた現在の文化会館敷地に建設することが望ましい)
- ・平成28年 7月 基本構想策定委員会設置 (6回開催)
- ・平成29年 2月 大野市文化会館整備基本構想策定
(現駅東公園に新文化会館を建設し、跡地に新駅東公園を整備)
- ・平成29年 5月 文化会館整備基本計画策定委員会設置 (7回開催)
- ・平成31年 2月 大野市文化会館整備基本計画策定
(機能、施設構成、運営方針、管理運営手法、整備スケジュールなど)
- ・令和 5年 7月 文化会館のあり方を検討する委員会の設置 (7回開催)
- ・令和 7年 3月 大野市文化会館あり方検討報告書提出

3. 大野市文化会館あり方検討報告書（令和7年3月27日提出）

文化会館のあり方と方向性について

- （１）文化活動に必要な補修や備品の導入を行うなど、市内の既存施設を有効に活用する方法が考えられる。
- （２）現文化会館について、技術の進歩などにより事業費を抑えた工法による耐震化や長寿命化の可能性を探ることも必要であると考えられる。

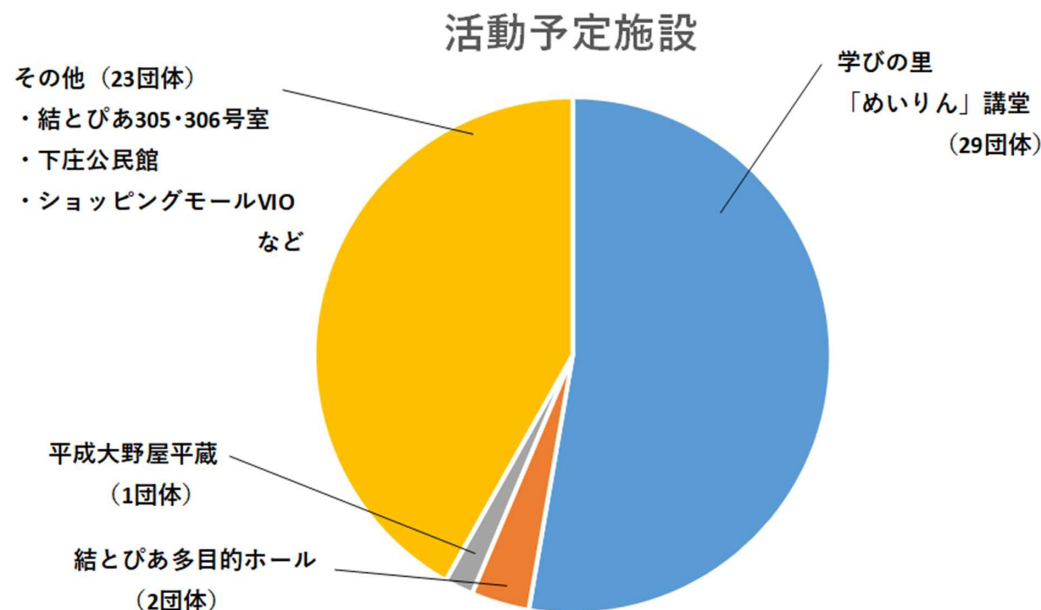
4. 調査の実施

調査 1) 市内の既存施設を有効に活用する方法について

対 象 : 現文化会館ステージを利用している 50 の文化団体等

調査期間 : 4 月 14 日から 4 月 26 日

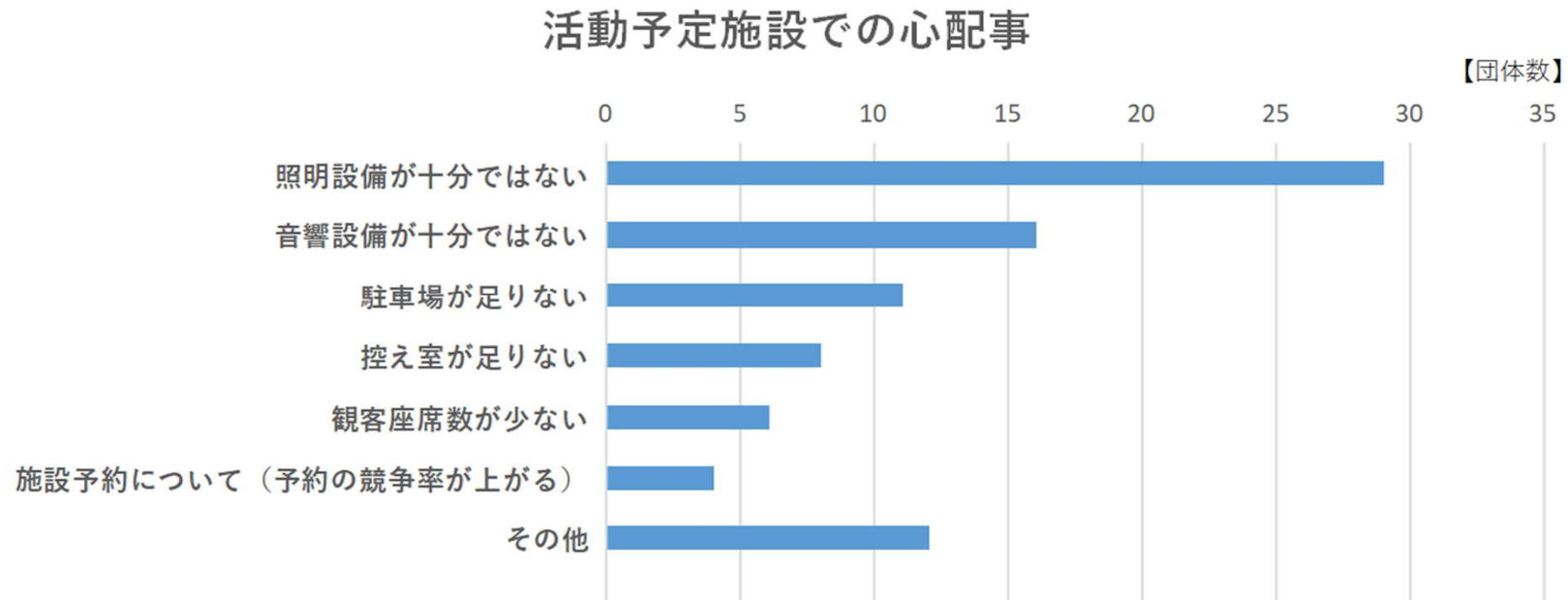
聞き取り① : 現文化会館閉館後の活動予定施設 (複数回答)



結果 : 学びの里「めいりん」講堂、結とびあ多目的ホール、平蔵などの施設での活動を予定しており、うち 29 団体が「めいりん」講堂の利用を予定 している。₄

4. 調査の実施

聞き取り②：活動予定施設での心配事（複数回答）



結果：ステージに関して照明や音響が十分でなく心配との声がある。

一方で23 団体が「活動予定施設にある機材で活動できる」と回答している。

4. 調査の実施

調査 2) 現文化会館の耐震化や長寿命化の可能性について

回答者：有限会社竹内建築設計事務所 竹内 文男
福井大学 工学系部門 工学領域建築建設工学講座 准教授 井上 圭一
一般社団法人福井県建築士事務所協会 櫻川 幸夫

質問：技術の進歩などにより、事業費を抑えることは可能か。

回答：・技術進歩はあるが、事業費を抑えることができるとは思えない。
・材料費や人件費の高騰により、当時の計画より安くはならず、むしろ上がると想像される。
・技術進歩により安価で施工できる箇所もあるが、それは部分的なものであり、材料費と人件費の上昇により、全体的に安価で工事できるとは思えない。

結果：技術進歩による経費抑制以上に材料費や人件費が高騰しており、
全体的な事業費は高額になるとの見解であった。

5. 方針

文化活動発表・鑑賞の場に関する方針

文化活動は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものです。

文化活動発表の場については、市民が行う様々な文化活動が展開され、人材育成や魅力ある地域づくりの活性化を図ることができる場所として、また文化活動鑑賞の場については、市民が行う多様で質の高い優れた発表を鑑賞する機会を提供し、地域の文化振興を図ることができる場所として、大切な役割を担っています。

文化活動発表・鑑賞の場を確保するにあたっては、少子化高齢化、人口減少に伴う文化施設の利用者数の減少や、将来世代への負担を残さない持続可能な財政運営を考慮し判断する必要があります。

大野市は、大野市文化会館あり方検討委員会からの報告などを踏まえ、これからの市民の文化活動発表・鑑賞の場に関する方針を下記のとおりとします。

記

- ・文化会館の新築・増築並びに現文化会館の耐震化・長寿命化は行わず、現文化会館は、令和8年5月31日をもって閉館します。
- ・文化活動に必要な補修や備品の導入を行い、市内既存施設を有効活用します。

令和7年5月 大野市